

ごみ減量作戦その1

余分な水分をカット 生ごみ水切り運動

生ごみを減らすポイントは
生ごみにあり!

市では1日平均で約51tの可燃ごみが家庭から出されています。その可燃ごみのうち約40%を生ごみが占め、その生ごみの重量の約80%が水分と言われています。

そのため、生ごみの水切りをすることにより大幅なごみ減量につながる可能性があります。市は家庭での生ごみのひとしほりをする「生ごみ水切り運動」を推進しています。

そのひとしほりが
大きな減量の1歩

生ごみの水切りは、生ごみに直接触れることになり敬遠されがちですが、生ごみに触れずに水を切るグッズなどを活用しながら



※写真は使用イメージです。

水切りを実践してみましょう。例えば、市内の各家庭で生ごみを捨てる時に、小さじ1杯分の水を切るだけでも、年間約191tのごみの減量化につながります。

ごみ減量作戦その2

ダンボールコンポストで 生ごみから堆肥へ

微生物の力で生ごみを分解

ダンボールコンポストは、ダンボールを利用した生ごみ処理容器です。ダンボールの中のピートモス(水コケの一種)と、もみ殻くん炭(もみ殻を炭にしたもの)を混ぜた基材の中にいる微生物によって、投入した生ごみを分解する仕組みになっています。生ごみを投入した基材は、やがて野菜や草花を育てるために使える堆肥になります。

ダンボールコンポストを作るために必要な材料は、ホームセンターなどで比較的価格でそろえることができます。室内やベランダでも手軽に始められ、電気代もかからない環境にやさしいダンボールコンポスト。市ホームページでは、作り方を紹介しています。



ごみ減量作戦その3

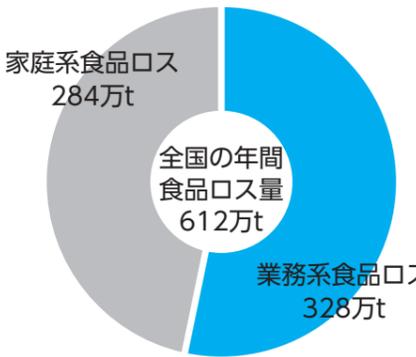
食品ロス削減

残さず食べて食品ロスゼロへ

食品ロスとは、本来であれば食べられたのに廃棄されてしまっている食品のことです。作りすぎによる食べ残しや、野菜の皮のむき過ぎ等は、どんなに経験があるのではないでしょうか。食品ロスを減らすには「もったいない」の意識を持つことが大切です。

食品ロス削減方法

- 食材は必要な分だけ買う
- 買い物前には冷蔵庫や食品庫の中をチェックしましょう。
- 必要なものをメモするのも有効です。
- 食材は使い切る
- 野菜の皮なども調理してみましょう。残った料理も、他の料理に作り替えるなど工夫して食べ切りましょう。



国民一人当たりの食品ロス量
1日 約132g
茶碗約1杯分のごはんに相当
年間 約48kg
年間1人当たりの米の消費量(約54kg)に相当



資料 総務省人口推計(平成29年10月1日) 平成29年度食糧需要表(確定値)

できることから
ごみの減量にご協力ください

新 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行われた外出自粛に伴い、家庭系ごみの排出量は増加傾向にあります。一人ひとりがごみの減量に取り組むことで、ごみの量は確実に減らすことができます。

また、地域のごみ収集所は自治会が管理しています。ごみが減ると、その分ごみ収集所の管理負担も少なくなります。

ごみの減量化は市だけの取り組みで推進できるものではありません。必要以上の買い物をしない、食事は残さず食べきること、買った皆さんが「できること」から取り組み、ごみの減量にご協力ください。

集団資源回収予定表 <回収品目は古紙類・缶類です>

回収場所	日程	時間	問合せ先
アスピアこだま	10月4日(日) 11月1日(日)	午前9時~11時	ハートtoハート(佐久間さんち)
市役所	10月18日(日)	午前9時~午後1時	☎22-9300
本庄南公民館 ※布類回収も実施	10月10日(土)	午前9時~11時	佐久間さんち ☎22-9300
就労継続支援B型事業所「佐久間さんち」 (本庄高校北側)	10月16日(金)	随時受付	ポノポノ ☎23-2195

■令和2年7月分のごみの量
(可燃・不燃・有害・粗大)
家庭系ごみ排出量 1924.91t
1人1日当たりのごみ排出量 約797g
前年同月比 +27g(+3.5%)
事業系ごみ排出量 771.76t
1人1日当たりのごみ排出量 約319g
前年同月比 -68g(-17.57%)

※天候等の理由で変更になる場合もありますので、各団体にご確認ください。